

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
榎本 雄三	選択	2	テクニカルライター、実務翻訳者			

授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。毎回授業内容に基づいた宿題を課し、翌週の授業でその説明を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

- 1 実務翻訳の特徴/自動翻訳時代の翻訳者の仕事
- 2 和文英訳の基本技術/ライティングの3C
- 3 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞
- 4 主語の選択/強い動詞
- 5 冗長な英文、簡潔な英文
- 6 無生物主語/分詞構文
- 7 長い修飾語の処理/コロケーション
- 8 英文手順書の表現
- 9 英文説明書の表現
- 10 英文リライト/英文表記ルール
- 11 和文英訳演習:環境問題
- 12 和文英訳演習:エネルギー
- 13 和文英訳演習:情報通信
- 14 翻訳支援ツール(翻訳メモリなど)
- 15 ニュールラル機械翻訳とポストエディット

授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。翻訳に必要な背景知識の説明も行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌、インターネットニュースなどの記事や各種パンフレットなどを教材にする。

参考図書

プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社
技術系英文ライティング教本、中山裕木子、日本工業英語協会
それわ英語じゃないだらふ、大西泰斗、幻冬舎

留意事項

ほぼ毎回課題を宿題として出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

kashimoto@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

英語文学を通して英語のさまざまな表現法を学び、また日本文化と比較しながら多文化を理解する。講義においては、「小説」というもっともポピュラーな読み物を楽しむとともに、そこに込められた作家の読者に対する真摯なメッセージを読み解く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）、In（国際性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

授業では"Pride and Prejudice"を中心に複数の英語文学を通して英語圏文化を理解するとともに、人生について、そして自己に誠実に真摯に生きることの意味について自ら考え表現する力を身につける。またRapid ReadingやCD、DVDなどの視聴覚教材によって「読み、聴き、話す、書く」という英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 The Language of Jane Austen's time
- 3 18-19世紀のイギリスの時代的・文化的背景
- 4 18-19世紀のイギリス女性の社会的地位と人生
- 5 "Pride and Prejudice"を読む Ch.1-3/研究発表
- 6 "Pride and Prejudice"を読む Ch.4-6/研究発表
- 7 "Pride and Prejudice"を読む Ch.7-10/研究発表
- 8 Discussion
- 9 "Pride and Prejudice"を読む Ch.11-14/研究発表
- 10 "Pride and Prejudice"を読む Ch.15-18/研究発表
- 11 "Pride and Prejudice"を読む Ch.19-20/研究発表
- 12 Fact Files "Socializing in Regency England"
- 13 Presentation/レポート提出
- 14 Discussion
- 15 Conclusion

授業の方法

講義のほかに、文学、あるいはそこに内在する文化の諸要素について学生同士でも自由に発言し、問題提起や議論の発展が可能なように、教師・学生の双方向性の授業形態を予定している。

準備学修

講義前に、テキストの各章を各自で予め読み、英語表現のみならず

異文化を理解し、また作家のメッセージ等も考えて授業中の自由闊達な議論に備える。（毎回30-60分）
講義後は、興味ある課題に各自で取り組み、課題のレポート作成の準備をする。（毎回30-60分）

課題・評価方法、その他

課題：発表、質疑応答、ディスカッション、レポート作成（随時レポート作成を課し、授業中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。）
評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な意見交換を高く評価する。

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen,"Pride and Prejudice"CD付.London:Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)
上記テキストが中心となるが、必要に応じて資料を配布する。

参考図書

翻訳書："Pride and Prejudice"（『高慢と偏見』あるいは『自負と偏見』）の翻訳書は、岩波、新潮、ちくま各文庫本でも入手可能である。
参考図書：授業で随時、指示する。
参考資料：配布。

留意事項

授業で取り上げる『高慢と偏見』は多数の翻訳書があるので、可能なかぎり予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。